

きょうの福音 (マタイ16・21-27)

自分の十字架を背負って

歩こう

滝野 正三郎

努力

わたしたちのまわりのことを見まわしてみたときに、
 いろんな足りないことや、満足できないことがたくさんあります。

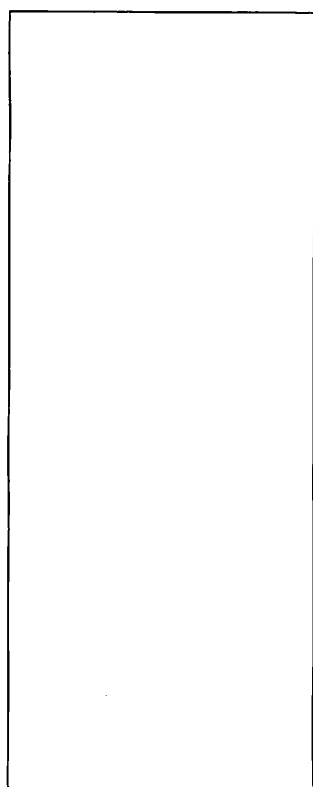
たいていの人たちは、これはしかたないと言って、
 あきらめてしまったり、あるいは、制度が悪いからだ
 とひらきなおったりしてしまいます。

でも、しかたないとあきらめたり、制度が悪いとい
 ったところで、問題が解決されるわけではありません。
 だれかがやってくれるだろうと、みんなが思っ
 たら、何も変わりません。

やはり、今の現状を少しでも変えていくためには、
 それぞれひとりひとりが、自分のできるところで、努
 力してみる必要です。

何も、大げさなことをすることだけを考えなくてよ
 いと思います。

たとえば、今まで、人の前ではずかしくて発言でき
 なかった人も、少し、努力することによって、人の前
 で、自分の意見を言うことができるようになります。
 ここで、それぞれ、どんなことなら努力することに
 よってできるか考えてみましょう。



自分にはできないとあきらめなくて、なんとか努力し
 てみましょう。

イエスは「自分の十字架を背負う

よう」弟子たちに言われる

聖書の中に出てくる弟子たちの姿を見ていてどんな

ことを感じていますか。

イエスに従っていった弟子たちですが、とても弱々しく描かれています。

きょうの福音の中のでてくるペトロも、イエスが、エルサレムに行ったあとで、つかまえられ、そして殺されてしまっただろうと言ったときも、決してそんなことがおこりませんようにと願っています。

ペトロに見れば、考えてもいなかったことでしたから、とても、イエスの言うことを受け入れられなかったのです。

ペトロだけでなく、ほかの弟子たちも同じことでしたが、かれらは、自分だけで何かをしようと思っていたわけではありませんでした。むしろ、イエスが、その当時のローマの軍隊を打ちやぶって、自分たちの独立した国を建ててくれるものと期待していました。自分たちの努力によって、現状を変えていこうとは思っていませんでした。

しかし、イエスは、自分が殺されたあとのこと心配になり、前もって、弟子たちに、その心がまえを持たせようとしたのです。

「自分の十字架を背負う」というと、とても、わたしにはできないと考えてしまいます。

でも、大きなことでなく、はじめに見たように、たとえ小さなことでも、自分が努力することによって、少しでも現状を変えていくことができれば、それこそ自分の十字架を背負ったことになります。

それぞれ置かれた立場の中で、自分にどんなことならできるのか、よく考えてみてください。あきらめるのではなく、少しでも努力して、それぞれの十字架を背負って歩きましょう。

(京都教区司祭)

